

東村山西 高等学校 令和8年度（1学年用） 教科 数学 科目 数学A

教科： 数学 科目： 数学A 単位数： 2 単位

対象学年組： 第 1 学年 1 組～ 6 組

教科担当者： 1 組：長嶋 2 組：高橋 3 組：高橋 4 組：富永 5 組：臼杵 6 組：富永

使用教科書：（ 数研出版 新編 数学A 改訂版 ）

教科 数学 の目標：

【知識及び技能】 数学における基本的な概念や、原則・法則を体系的に理解する。

【思考力、判断力、表現力等】 数学を活用して事象を論理的に考察する力を養う

【学びに向かう力、人間性等】 数学の良さを認識して積極的に数学を活用しようとする態度を養う

科目 数学A の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
図形の性質、場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と人間の活動の関係について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	図形の構成要素間の関係などに着目し、図形の性質を見だし、論理的に考察する力、不確実な事象に着目し、確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力、数学と人間の活動との関わりに着目し、事象に数学の構造を見だし、数理的に考察する力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

2 学習計画と観点別評価規準 *次の表は、「場合の数と確率」「図形の性質」を選択し、この順に履修する場合である。以下、履修月はあくまでも目安である。

第1章 場合の数と確率

学習内容 (配当時間)	月	学習のねらい	観点別評価規準例		
			知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
第1節 場合の数	4	場合の数を求めるときの基本的な考え方についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。	○和集合や補集合について理解し、その要素の個数を求めることができる。 ・例1, 練習1 ○和集合、補集合の要素の個数の公式を利用できる。 ・例2, 練習2 ○ベン図を利用することで、和集合や補集合の要素の個数を求めることができる。 ・例題1, 練習3 ○具体的な日常の事象に対して、集合を考えることで、人数などを求めることができる。 ・応用例題1, 練習4～5	○ベン図を利用して集合を図示することができる。 ・p.15～17	○集合を考えることで、日常的な事柄などを、集合の要素の個数として数学的に数えようとする。 ・応用例題1, 練習4～5 ○表を作って集合の要素の個数を求める方法に興味を示し、それを利用しようとする。 ・練習4
	5	2. 場合の数 (4)	○樹形図を用いて、場合の数をめれなくかつ重複なく数えることができる。 ・例3, 応用例題2, 練習6～8 ○和の法則、積の法則の利用場面を理解し、事象に応じて使い分けて場合の数を求めることができる。 ・例題2～3, 応用例題3, 練習9～12	○場合の数を数える適切な方針を考察することができる。 ・p.19～21 ○自然数の正の約数の個数を数える方法を考察することができる。 ・p.22	○道順の数え方に興味を示し、樹形図、和の法則や対称性などによる場合の数の数え方に関心をもつ。 ・p.18 ○自然数の正の約数の個数を数えること、式の展開を利用して約数が列挙できることに興味を示す。 ・p.22
3. 順列 (4)	6	○順列の総数、階乗を記号で表し、それを活用できる。 ・例4～5, 練習13～15 ○順列、円順列、重複順列の公式を理解し、利用することができる。 ・例4～7, 例題4～5, 練習13～17, 20, 23 ○順列、円順列に条件が付く場合に、条件の処理の仕方を理解している。 ・応用例題4～5, 練習18～19, 21～22	○条件が付く順列、円順列を、見方を変えたり別なものに対応させたりして処理することができる。 ・応用例題4～5, 練習18～19, 21～22 ○既知の順列や積の法則をもとにして、円順列、重複順列を考察することができる。 ・例6～7, 例題5, 応用例題5, 練習20～23	○既知である積の法則から順列の総数を求める式を導こうとする。 ・p.23～24 ○色の塗り分けの方法を数えるのに、順列の考え方が使えることに興味・関心をもつ。 ・練習17 ○順列、円順列、重複順列の違いに興味・関心をもつ。 ・例6～7	
		4. 組合せ (4)	○組合せの総数を記号で表し、それを活用できる。また、組合せの公式を理解し、利用することができる。 ・例8～9, 例題6～7, 練習24～28 ○組合せの条件が付く場合に、条件の処理の仕方を理解している。 ・例題6～7, 練習27～28 ○組分けの総数を求めることができる。 ・応用例題6, 練習29 ○同じものを含む順列の総数を求めることができる。 ・例題8, 応用例題7, 練習30～31	○既知である順列の総数をもとにして、組合せの総数を考察することができる。 ・p.30～31 ○条件が付く組合せを、見方を変えたり別なものに対応させたりして処理することができる。 ・例題6～7, 練習27～28 ○同じものを含む順列を、組合せで考察することができる。 ・p.35	○順列と組合せの違いに興味・関心をもつ。 ・p.30～31 ○組合せの考え方を活用して図形の個数や同じものを含む順列の総数などが求められることに興味・関心をもつ。 ・例題6, 8, 練習27, 30 ○重複を許して作る組合せについて理解し、その総数を、順列や組合せの考えを適切に用いて求めようとする。 ・p.37 研究
		補充問題 (1) コラム			○完全順列について興味・関心もち、その総数を求めようとする。 ・p.38 コラム

第2節 確率	5. 事象と確率 (3)	7	確率の意味や基本的な法則についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。	○確率の意味、試行や事象の定義を理解している。 ・p.39~40 ○試行の結果を事象として表すことができる。 ・p.40, 例10, 練習32 ○確率の定義を理解し、確率の求め方がわかる。 ・例11~12, 例題9~11, 応用例題8, 練習33~39	○試行の結果を事象として捉え、事象を集合と結びつけて考察することができる。 ・p.40, 例10, 練習32 ○不確定な事象を、同様に確からしいという概念をもとに、数量的に捉えることができる。 ・例11~12, 例題9~11, 応用例題8, 練習33~39	○1個のさいころを繰り返し投げた実験などを通して、統計的確率と数学的確率の違いに興味・関心をもつ。 ・小項目A
	6. 確率の基本性質 (4.5)		○積事象、和事象の定義を理解している。 ・例13, 練習40 ○確率の基本性質を理解し、和事象、余事象の確率の求め方がわかる。 ・例題12, 例15, 応用例題9, 練習43~46 ○確率の計算に集合を活用し、複雑な事象の確率を求めることができる。 ・例16, 練習47	○集合の性質を用いて、確率の性質を一般的に考察することができる。 ・p.45~50	○加法定理などを利用して、複雑な事象の確率を意欲的に求めようとする。 ・例題12, 例15~16, 応用例題9, 練習43~47	
	7. 独立な試行と確率 (4.5)		9	○独立な試行の確率を、公式を用いて求めることができる。 ・例17~18, 練習48~49 ○複雑な独立試行の確率を、公式や加法定理などを用いて求めることができる。 ・例題13, 練習50 ○反復試行の確率を、公式を用いて求めることができる。 ・例19, 練習51 ○複雑な反復試行の確率を、公式や加法定理などを用いて求めることができる。	○独立な試行の確率を、具体的な例から直観的に考えることができる。 ・p.51~53 ○既習の確率の知識を利用して、反復試行の確率について考察することができる。 ・p.54~55	○独立な試行の確率について、興味をもって調べようとする。 ・p.51~53 ○具体的事象について、反復試行の確率を、興味をもって調べようとする。 ・p.54~55
第1節 平面図形	8. 条件付き確率 (3)	10	○条件付き確率を、記号を用いて表すことができる。 ・p.56~58 ○条件付き確率の式から確率の乗法定理の等式を導くことができる。 ・p.58 ○条件付き確率や確率の乗法定理を用いて確率の計算ができる。 ・例22, 例題15, 練習55~57	○既習の確率と条件付き確率の違いについて、図や表などを用いて考察することができる。 ・p.56~57	○条件付き確率や確率の乗法定理の考えに興味・関心をもち、積極的に活用しようとする。 ・p.56~59	
	9. 期待値 (2)		○期待値の定義を理解し、期待値を求めることができる。 ・例23, 例題16, 練習58~59	○結果が不確実な状況下において、どの選択が有利かを判断する基礎として、期待値の考えを用いて考察することができる。 ・p.62	○日常の事象における不確実な事柄について判断する際に、期待値を用いて比較し、考察しようとする。 ・p.62	
	補充問題 (1) コラム					○感覚としての「当たりやすさ」と数学的確率の違いについて考察しようとする。 ・p.63 コラム
	章末問題 (2)					

第2章 図形の性質

学習内容 (配当時間)	月	学習のねらい	観点別評価規準例		
			知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
第1節 平面図形	11	1. 三角形の辺の比 (2)	○線分の内分・外分、平行線と比などの基本事項を理解している。 ・p.68~69 ○定理を適切に利用して、線分の比や長さを求めることができる。 ・例題1, 練習2, 4	○図形の性質を証明するのに、既習事項を用いて論理的に考察することができる。また、適切な補助線を引いて考察することができる。 ・定理1の証明, 練習3	○線分を内分・外分する点や、三角形の角の二等分線と比について調べようとする態度がある。 ・p.68~70
		2. 三角形の外心・内心・重心 (2)	○三角形の外心、内心、重心の定義、性質を理解している。 ・例1~2, 練習5~8	○図形の性質を証明するのに、間接的な証明法である同一法が理解できる。 ・定理5の証明	○三角形の外心、内心、重心に関する性質に興味を示し、積極的に考察しようとする。 ・p.71~75
	12	3. チェバの定理・メネラウスの定理 (3)	○チェバの定理、メネラウスの定理を理解している。 ・定理6~7, 例3~4, 練習9~11 ○チェバの定理、メネラウスの定理を、三角形に現れる線分比を求める問題に活用できる。 ・練習9~12 ○三角形の存在条件や、辺と角の大小関係について理解している。 ・p.80~81 研究	○チェバの定理、メネラウスの定理について、論理的に考察し、証明することができる。 ・定理6の証明, 定理7の証明	○チェバの定理、メネラウスの定理に興味を示し、積極的に考察しようとする。 ・p.76~79 ○三角形の辺と角の大小関係という明らかに見える性質を、論理的に考察しようとする。 ・p.81 研究
		4. 円に内接する四角形 (2)	○円の基本的な性質を理解している。 ・小項目A ○円周角の定理と円周角の定理の逆を理解している。 ・練習14~15 ○円に内接する四角形の性質を利用して、角度を求めることができる。 ・練習16 ○四角形が円に内接するための条件を利用して、円に内接する四角形を求めることができる。 ・練習17	○円に内接する四角形の性質について、論理的に考察することができる。 ・定理8の証明 ○円に内接する四角形の性質に着目し、逆に、四角形が円に内接するための条件について論理的に考察することができる。 ・定理9の証明	○三角形の外接円は必ず存在するが、三角形以外の場合は必ずしも存在しないことから、四角形が円に内接する条件を考察しようとする。 ・p.83 本文

	5. 円と直線 (4)	1	<ul style="list-style-type: none"> ○円の接線の性質を利用して、線分の長さを求めることができる。 ・例題 2, 練習 18 ○円の接線と弦の作る角の性質を利用して、角度を求めることができる。 ・練習 19 ○方べきの定理を利用して、線分の長さなどを求めることができる。 ・練習 20~22 	<ul style="list-style-type: none"> ○円と直線を動的にとらえて、それらの位置関係を考察することができる。 ・p.86 導入部分 ○方べきの定理について、対象とする図形に応じて見方を変えて考えることができる。 ・定理 11~12 	<ul style="list-style-type: none"> ○相似を利用した方べきの定理の導き方に興味・関心をもつ。 ・定理 11 の証明 ○方べきの定理の逆が成り立つことに興味・関心をもつ。 ・p.91 研究
	6. 2 つの円 (2)	2	<ul style="list-style-type: none"> ○2 つの円が内接しているとき成り立つ性質を利用して角度を求めることができる。 ・練習 24 ○共通接線の定義を理解し、その長さの求め方がわかる。 ・例題 3, 練習 25~26 	<ul style="list-style-type: none"> ○2 つの円を動的にとらえて、それらの位置関係を考察することができる。 ・小項目 A 	<ul style="list-style-type: none"> ○2 つの円の位置関係と、中心間の距離と半径の関係を積極的に考察しようとする。 ・p.92~93
	7. 作図 (3)		<ul style="list-style-type: none"> ○中学校で学んだ垂線の作図を知っている。 ・小項目 A ○線分の内分点・外分点の作図や、$\frac{b}{a}$ や ab の長さをもつ線分の作図ができる。 ・例 5~6, 練習 29~30 ○\sqrt{a} の長さをもつ線分の作図の方法を文章で表現し、得られた図形が確かに条件を満たすことを証明することができる。 ・例題 4, 練習 31 	<ul style="list-style-type: none"> ○平行線と線分の比の性質を利用して、内分点・外分点の作図の方法や、$\frac{b}{a}$ や ab の長さをもつ線分の作図の方法を考察することができる。 ・例 5~6, 練習 29~30 	<ul style="list-style-type: none"> ○数学で扱う作図と、日常において図形をかくことでは、何が違うか考えてみようとする。 ・p.95 導入部分 ○正五角形の作図の手順を理解し、正五角形以外にもいろいろな図形の作図に興味・関心をもつ。 ・p.99 研究 ○コンピュータなどの情報機器を積極的に用いるなどして、作図の方針を立てようとする。 ・p.100 研究
	補充問題 (1) コラム				<ul style="list-style-type: none"> ○チェバの定理の逆について興味・関心をもち、証明問題に活用しようとする。 ・p.101 コラム
第 2 節 空間図形	8. 直線と平面 (3)		<ul style="list-style-type: none"> ○空間における 2 直線の位置関係やなす角を理解している。 ・小項目 A, 練習 32 	<ul style="list-style-type: none"> ○空間における直線と平面が垂直になるための条件を、与えられた立体に当てはめて考察することができる。 ・例題 5, 練習 33 ○空間における直線や平面が平行または垂直となるかどうかを、与えられた条件から考察することができる。 ・練習 34 	<ul style="list-style-type: none"> ○空間における図形の位置関係について、積極的に考えてみようとする。 ・p.102~105
	9. 空間図形と多面体 (3)	3	<ul style="list-style-type: none"> ○正多面体の特徴を理解し、それに基づいて面、頂点、辺の数を求めることができる。 ・例 7, 練習 35 ○正多面体どうしの関係を利用して、正多面体の体積を求めることができる。 ・p.109 研究 	<ul style="list-style-type: none"> ○正多面体の満たす条件を理解し、正多面体から切り取った立体がまた正多面体であることを示すことができる。 ・p.108, 練習 38 	<ul style="list-style-type: none"> ○オイラーの多面体定理がどんな凸多面体でも成り立つかどうか調べてみようとする。 ・練習 36~37 ○オイラーの多面体定理を利用すると、正多面体の面の形から面の数が限定されることに興味をもつ。 ・p.110 研究
	補充問題 (1) コラム				<ul style="list-style-type: none"> ○準正多面体と、正多面体の頂点を切り取ってできる多面体の関係について、考察しようとする。 ・p.111 コラム
	章末問題 (2)				

第3章 数学と人間の活動

	学習内容 (配当時間)	月	学習のねらい	観点別評価規準例		
				知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
第1節 整数の性質	1. 約数と倍数 (2)		<p>最大公約数、最小公倍数と素因数分解、整数の余りと1次不定方程式、記数法など、整数の様々な性質を、それらの関係も含めて深く理解し、種々の問題の解決に活用できるようにする。</p>	<p>○約数・倍数の意味を理解している。 ・例1, 練習1</p> <p>○ある整数aの倍数はakと表せることを使って、簡単な命題を証明することができる。 ・例題1, 練習2</p> <p>○3の倍数, 9の倍数の判定法について理解している。 ・例2, 練習3~4</p>	<p>○5の倍数であり, 3の倍数でもある数について考察することができる。 ・練習4</p> <p>○約数の定義を用いて等式を満たす整数の値を求める方法について, 考察することができる。 ・p.119 研究</p>	<p>○いろいろな数の倍数の判定法について調べようとする態度がある。 ・小項目C</p>
	2. 素数と素因数分解 (1.5)		<p>○自然数の素因数分解を求めることができる。 ・例3, 練習5</p> <p>○自然数の正の約数やその個数を求めるのに, 素因数分解が利用できることを理解している。 ・例4~5, 練習7~8</p>	<p>○平方数になる条件を, 素因数分解の結果から考察することができる。 ・例題2, 練習6</p>	<p>○素因数分解を利用することで平方数になる条件や自然数の正の約数の個数が求められることに興味・関心をもつ。 ・p.121~122</p>	
	3. 最大公約数・最小公倍数 (3)		<p>○最大公約数と最小公倍数の定義を理解し, 約数や倍数を書き並べる方法で求めることができる。 ・例6~7, 練習9~10</p> <p>○素因数分解を利用して最大公約数・最小公倍数を求める方法を理解している。 ・例8~9, 練習11~12</p> <p>○2つの整数が互いに素であるかどうか判別できる。 ・例10, 練習14</p> <p>○互いに素な整数の性質を利用して, 自然数の倍数に関する命題を証明することができる。 ・例題4, 練習15</p>	<p>○2数の最小公倍数は2数の素因数のすべてを因数とするということを理解し, それを利用して問題を考察することができる。 ・例題3, 練習13</p> <p>○最大公約数・最小公倍数の性質を用いて, 最大公約数と最小公倍数がわかっているとき, もとの2数の組を求めることができる。 ・p.128 研究</p>	<p>○素因数分解を利用して最大公約数, 最小公倍数を求める方法について, それらを比較し, 類似点や相違点を見出そうとする。 ・例8~9, 練習11~12</p>	
	4. 整数の割り算 (3)		<p>○整数aを正の整数bで割る割り算を, aとbの間に成り立つ等式として捉えることができる。 ・例11, 練習16~17</p> <p>○2つの整数a, bを除数と余りを用いて表し, $a+b$などの余りを求めることができる。 ・例題5, 練習18</p> <p>○連続する整数の積の性質を利用して証明ができる。 ・例題6, 練習19</p>	<p>○余りによって整数を分類して証明する仕組みを理解し, 正しく証明ができる。 ・応用例題1, 練習20</p>	<p>○連続する2つの整数の積が2の倍数であることについて, それが成り立つ理由を理解し, 連続する3つの整数, 連続するm個の整数の積の性質を予想したり証明したりしようとする。 ・p.131~132</p> <p>○整数を具体的な正の整数で割った余りの性質から, 一般の正の整数で割った余りの性質を予想したり証明したりしようとする。 ・p.130, p.133 研究</p>	
	5. ユークリッドの互除法 (3)		<p>○互除法の原理を理解し, 互除法を用いて2数の最大公約数を求めることができる。 ・例12, 練習21</p> <p>○互除法を用いて, 1次不定方程式の解を1つ求めることができる。 ・例13, 練習22</p>	<p>○互除法の計算から最大公約数を表す式が導かれることを具体例から考察し, 一般にも適用できることに気付く。 ・p.138</p>	<p>○素因数分解をしなくても, 互除法によって最大公約数が求められることに興味・関心をもつ。 ・例12, 練習21</p>	
	6. 1次不定方程式 (2)		<p>○1次不定方程式$ax+by=0$のすべての解を求める方法を理解して</p>	<p>○1次不定方程式の解の表示について, その意味や特殊解のとり方によ</p>	<p>○1次不定方程式$ax+by=0$とその解について, 座標平面上の直線</p>	

			<p>いる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・例 14 <p>○係数が小さい場合の 1 次不定方程式の特殊解を求め、それによりすべての整数解を求めることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・例題 7, 練習 23 <p>○係数が大きい場合の 1 次不定方程式の特殊解を求め、それによりすべての整数解を求めることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・例題 8, 練習 24 	<p>る違いなどを正しく理解している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・p.140, 例題 7 <p>○整数に関する問題を、1 次不定方程式に帰着させて解くことができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・応用例題 2, 練習 25 	<p>とそれが通る格子点と見て、多面的に理解を深めようとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・p.140
	7. n 進法 (1.5)		<p>○n 進法の仕組みを理解し、10 進法の数を n 進法で、n 進法の数を 10 進法で表すことができる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・例 15, 練習 26, 27 <p>○n 進法の小数を 10 進法で、10 進法の小数を n 進法で表すことができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・例 16, 練習 28 	<p>○2 で割った余りを用いて 10 進法の数を 2 進法で表す方法について、それが成り立つ理由を考察することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・p.145 	<p>○n 進法の仕組みから、慣れ親しんだ 10 進法の仕組みについて、改めて包括的に理解しようとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小項目 A
	補充問題 (1) コラム				<p>○偶数の完全数をもつ性質について興味をもち、考察しようとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・p.147 コラム
第 2 節 数学と人間の活動	8. 整数の性質と人間の活動 (4)	<p>さまざまな人間の活動の中から、整数を中心とした数学的な要素を見出し、数学の内容の理解を深めると同時に、現実の事象を、数学を用いて考察できるような力を培う。</p>	<p>○百五減算の考え方を利用して、整数の余りに関する問題を解くことができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・練習 34 <p>○古代の記数法について理解し、数を読み取ったり、その記数法で表したりできる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・例 17~18, 練習 36~37 	<p>○「エラトステネスのふるい」を使うことによって得られた数字の並びから、素数についてどのようなことが成り立つかを考察することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小項目 B, 練習 30 <p>○百五減算について、実際に年齢を求める計算をいくつかすることを通じて、その仕組みを割り算の余りの性質から理解し、説明することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・練習 33 <p>○油分け算と、素数と素因数分解の問題について理解し、解から油を分ける手順を説明することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・練習 35 	<p>○バーコードなどに約数と倍数の考えが活用されていることを理解し、それを確認したり考察したりしようとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小項目 A, 練習 29 <p>○暗号技術に素因数分解の考えが活用されていることに、興味・関心をもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小項目 B <p>○「干支」という身近な用語について、最小公倍数との関連を見つけて考察しようとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小項目 C, 練習 31
	9. 座標の考え方 (2)		<p>○地上における特定の地点を、座標平面上の点と捉えて位置を座標で表現できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・例 19, 練習 38 <p>○空間における特定の地点を、座標空間上の点と捉えて位置を座標で表現できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・例 21, 練習 40 <p>○三平方の定理を利用して、空間における 2 点間の距離の式を示すことができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・練習 41 	<p>○座標平面上の点の位置を特定するために、条件から図形の性質に着目し、適切な定理を利用して考察することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・例 20, 練習 39 <p>○平面上の点の座標の考え方を、空間の点の座標に拡張して考えることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・p.158 	<p>○平面上の点の位置に関する問題を、座標平面上で代数的に解決する解法のよさを知ろうとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・例 20, 練習 39 <p>○カーナビゲーションによる自動車の位置の特定において、座標の考えが活用されていることに興味・関心をもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・p.159
	10. ゲーム・パズルの中の数学 (2)		<p>○三目並べのルールを理解している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・p.160 <p>○魔方陣のルールを理解している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・p.162 	<p>○ゲームの設定を多面的かつ論理的に考え、ゲームで勝つ方法を見つけることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・練習 42~43 <p>○魔方陣の構造を考察し、成り立つと推察される性質について実際に成り立つことを証明できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・練習 44~49 	<p>○ゲームで勝つ方法やパズルの仕組みなどを、論理的に考察しようとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・p.160~165 <p>○自国だけではなく、他国のゲームにも興味・関心をもち、他国の文化への理解を深めようとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・p.161
	章末問題 (2)				